

ることができました。

さて、昨年の暮れ、ボストンから、JAPAN SOCIETY OF BOSTON, INC. (日本協会)のディレクターを、我が家にお招きした際、ボストン東校のお話を聞くことができました。

ボストン東校は、武蔵野東学園の創立者、北原キヨ先生が、1987年に姉妹校として開校されました。

私は、全国自閉症研究会長を務めていた頃、武蔵野東学園を訪問させていただき、共に学ぶ子どもたちの姿を目の当たりにし、目指すべき教育の在り方を教えていただきました。また、北原キヨ先生のご著書「可能性を求めて」や「生活療法 花の実り」には、創立の熱気や生活療法の発見、CEC会議(アメリカの最も権威ある研究団体)での講演や反響などが詳しく書かれており、深く感銘を受けました。

ボストン東校は、「生きているすべての子どもの中に、最も貴重な自己同一性の芽が存在します。それを見つけ出し、愛情を持って育てていくことが、自閉症児に対する教育の本質です」という北原キヨ先生の教育理念のもとにプログラムがつけられ、生活の中で総合的に学べるよう工夫されています。私は、この素晴らしい取り組みのいくつかが、スマートキッズの各教室の活動と重なるように思います。なぜなら、各教室では、来室してから帰るまでの生活リズムを創り出し、遊びや運動、着替えや片付け、手洗いやトイレなどの生活習慣、ダンスやものづくりなどのアート、遊びをベースにした療育的な活動、指導員の様々なアイデアと手作り教材によるアクティビティなどに取り組む子どもたちの貴重な成長の場であるからです。例えば、ある教室のある日の活動に、一人ひとりが旅行に行く計画を立て、駅員に扮した指導員に行き先を告げて、切符を買い、目的地に行き、名物を買うという模擬旅行を楽しんでいました。子どもたちは、楽しそうに学びながら遊び、遊びながら学んでいました。

ボストン東校の素晴らしい取り組みの中から、もう一つ、エマージェンシス プログラムについて共有したいと思います。これは、学校から成人期に進む19歳から22歳までの学生にサービスが提供され、卒業に向けた準備を整える専門的なカリキュラムとされています。有給の職またはボランティアとして働き、自立した生活への道筋を体験的に学ぶことができるそうです。また、図書館、ジム、スーパーマーケット、銀行などの地域施設にアクセスし、卒業後の生活を体験しながら、社会的スキルを学んでいるようです。こうした社会に出る準備を丁寧に学べるようなカリキュラムは、とても重要ですが、日本では、まだ不十分な現状です。私の知人は、学校を卒業して、やっと見つけた職業訓練校に通い、数年後やっとスキルを身につけ、やっと就職にこぎつけました。道筋をつけるだけで相当な苦勞でした。学校と社会をつなぎ、地域で取り組めるプログラムを開発していきたいとつくづく思います。多くの皆様と情報交流できればと思います。



<プロフィール>

スマートキッズ発達支援研究所 所長 中村雅子

私は、全国情緒障害教育研究会会長を5年間、設置校長を15年間務め、大学等で後進の育成に当たるとともに、国立成育医療研究センターの臨床研究員として、プレコンセプションケアの研究にかかわっています。(※全国情緒障害教育研究会は、1968年、自閉症児親の会全国協議会の結成と同年に創立された)

これまで多くの保護者の皆様と出会い、率直なご意見を伺ってきました。その多くが、卒業後、就労し、社会の中で人とかわり、生き生きと生きていくために、十分な教育ができているだろうかという不安でした。当研究所は、教育、医療、心理の経験豊かな専門家集団として、このような問いと真摯に向き合い、より有効な支援プログラムを開発し、その効果的な活用法を開発していきたいと思っております。また、学校(園)と放課後等デイサービス・児童発達支援等の連携を図り、子どもたちの健康づくりやキャリア形成、遊びや余暇など、豊かな生活づくりにつながる実践を推進してまいります。